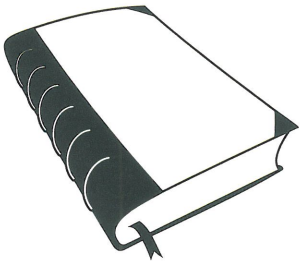
巻頭言

図書館の力

図書館情報センター館長　白石 浩之

大学図書館の役割は当初教育、研究が中心でしたが、その後地域社会との連携が重要となり、社会貢献が加わりました。最近では情報の収集・発信が加わり、4本の屋台骨が主流になっています。そのことと相俟ってインターネットの急速な普及による電子媒体資料が一段と広まり、より早く情報を収集し、そして発信する機能が要されていることから、愛知学院大学も図書館情報センターと改名された所以でしょう。

大学図書館は『大学の顔』とよく言われます。図書館をみればおおよそ大学の質や活性化しているか否か一目でわかるでしょう。愛知学院大学の図書館情報センターの蔵書数は約916千冊（2013年3月末現在）で一大学あたりの約232千冊（2012年現在）を大きく上回ります。また日進キャンパスの図書館情報センターの面積は13,960㎡で、名古屋大学の15,579㎡に次ぐ大きさです。東海地方の私立大学の中では大変規模の大きい図書館で、愛知学院大学の誇れる施設の一つとなっています。加えて2013年度新たにラーニングコモンズが完成し、多くの教員と学生が共同利用し、質の高い教育効果をあげています。

ところで2013年度全国学校図書館協議会と毎日新聞による第59回学校読書調査結果によれば、小学校から中学校そして高等学校の高学年になるにつれて1ヶ月に1冊も本を読まなかった子供が多くなっています。何と高校生は45%の不読率で、学校図書館の利用頻度も高学年ほど低くなる結果が示されています。また一日あたりの読書時間を全く持たない大学生が4割を超しているという記事が朝日新聞に紹介されていました。その傾向とは裏腹に学力の向上が読書活動と密接な相関関係にあることも指摘されています。

図書館情報センターの扉を開いてください。そうすればきっと多くの読みたい書物と出会い、広い世界が見渡せ、豊かな知識や感性が磨かれるようになるでしょう。図書館は貴方の才能を伸ばす力の宝庫です。大いに利用してください。